



似たモノ  
さがし

似てるけどどこか違う  
似てないようでどこか似てる  
いろんな工夫や思いを映す  
みんなの所蔵資料

## みんなのマドンナたち

古沢 ゆりあ ふるさわ 総合研究大学院大学 文化科学研究科 博士課程

今月はクリスマスの時期ということもあり、世界各地のマリア様の像をみてみよう。「似たモノ」というか、そもそも同じ人物の像なのだが、時代や地域によってじつに多様な表現がある。

まず、古くからの伝統を受け継ぐのが、イコンとよばれる東方教会の聖像画である。古色を帯びたブルガリアのイコンには、聖母子と聖人たちが描かれている<sup>①</sup>。

一方、マリアが人びとの前に出現したとされる出来事があると、目撃者の証言にもとづき新しいマリア像が生まれる。フランスのルルドでの出現（一八五八年）による「ルルドの聖母」は、このハンガリーの小像のように、今では世界中でカトリックの人びとに崇敬されて

いる<sup>②</sup>。

土地と結びつき、特定の人びとの信心をとりわけ集めるマリア像もある。ビデオテク映像「黒いマリアの巡礼」では、フランス中部オルシバル村の黒いマリアをマヌーシュ（ジブシー）の人びとが訪れる<sup>③</sup>。川で漁師の網から発見されたという伝承をもち、ブラジルの国の守護聖人となったのは、「アパレシードの聖母」だ<sup>④</sup>。

身につけて持ち運べるマリア像もある。韓国のキーホルダーでは、幼子イエスを抱くマリアはチマチヨゴリをまとった韓国人の姿であり<sup>⑤</sup>、フィリピンのお守りには、ルソン島南部ナガに三百年伝わる「ベニヤフランシアの聖母」の姿が铸られている<sup>⑥</sup>。これらには、マ

リアをいつも自分たちの身近な存在として感じたいという願いが見てとれる。

麦藁細工のメキシコの聖母像から<sup>⑩</sup>、細かい文様の彫られた木の十字架のなかに描かれたエチオピアの聖母子まで<sup>⑦</sup>、それぞれの土地の素材や技法を用い、人びとの想像力／創造力を反映してさまざまなマリア像が生まれてきた。

なお、クリスマスの時期（待降節から公現祭まで）、キリスト教徒の家庭や学校、お店などでは、キリスト降誕の場面の人形が飾られる。これらイタリアとグアテマラの作例のかわいらしいマリア像は<sup>④⑤</sup>、飼葉桶の幼子イエス、父ヨセフ、東方の三賢王などの登場人物たちとともに降誕場面を構成する人形のひとつである。

- ①お守り、フィリピン、縦4.9×横3.2×厚さ0.7cm、H0224687  
現地ではアンティン・アンティンとよばれる
- ②聖母マリア像、ハンガリー、幅4.7×高さ16×奥行3.8cm、H0161301
- ③聖母子像のキーホルダー、大韓民国、縦12×横5.3×厚さ0.4cm、H0214343
- ④クリスマス人形（キリスト降誕）、グアテマラ、幅6.6×高さ18×奥行5.5cm、H0193578
- ⑤クリスマス人形（キリスト降誕）、イタリア、幅5.8×高さ12×奥行4.1cm、H0103545
- ⑥「黒いマリアの巡礼」、フランス、ビデオテク番組番号7178
- ⑦十字架、エチオピア、縦33×横15×厚さ1.8cm、H0175059  
蓋を開けるとイコンが描かれている
- ⑧イコン「聖母とキリスト」、ブルガリア、縦40×横28×厚さ5cm、H0064463
- ⑨アパレシードの聖母像、ブラジル、幅24×高さ44×奥行10.5cm、H0268819
- ⑩聖母マリアの麦藁細工、メキシコ、幅30×高さ40×厚さ5.8cm、H0155010

※寸法は計測時の最大値を示す。